

麦作情報 第5号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

◎生育概況

気温が平年並み～やや高く推移したため、茎立ちは昨年 비해早く、出穂期は昨年より早くなる見込みです。

今後は、穂揃期追肥や赤かび病防除など、麦の品質を大きく左右する重要な管理作業があります。ほ場の状態を確認し、生育に応じた適期作業、適期防除に努めてください。

1. 排水対策

出穂期以降の降雨は麦の登熟に大きく影響するため、排水対策は極めて重要です。もう一度排水溝の溝さらえや排水溝の連結等を行い、地表面や溝に水が溜まらないようにしましょう。

2. 施肥（小麦）

小麦では、タンパク質含有率が基準値の範囲内になるよう、必ず穂揃期追肥を行って下さい。追肥一発肥料のグッドIB506を施用されているチクゴイズミのほ場でも、葉色が薄いほ場や茎数(穂数)が多いほ場では穂揃期追肥（硫安 5kg/10a）を行いまし
よう。

なお、穂揃期追肥を行っても熟期が大幅に遅れることや倒伏することはありません。

<粒状施肥の場合>

品 種	施 肥 時 期（予想）	施 肥 量
チクゴイズミ (タンパク質含有率) 目標 10%	穂揃期～穂揃期後7日まで 11月20日頃播種の目安 (4/1～11日頃)	硫安 10kg/10a 又は 尿素 5kg/10a
ちくしW2号 (タンパク質含有率) 目標 12%	12月5日頃播種の目安 (4/8～18日頃) ※津屋崎地区はこれより10～14 日程度早まる可能性があります。	硫安 25kg/10a 又は 尿素 11kg/10a

※葉色が薄いほ場や茎数が多いほ場では、施用量を増やしてください。

(+5kg/10a程度)

※播種が遅れたほ場でも必ず施用してください。

(参考)追肥時期ごとの生育、収量および品質への影響度

追肥時期	稈長	穂数	倒伏	一穂粒数	千粒重	収量	タンパク含有率
茎立前20日	大	大	大			大	
茎立期	極大	極大	極大			極大	中
茎立後20日	小	小	小	大	小	大	中
茎立後30～40日	小	小	小	極大	小	大	大
穂ぞろい期					極大	大	極大

(参考) 出穂期：全茎数の40～50%が出穂した日

穂揃期：全茎数の80%以上が出穂した日（出穂期の2～4日後）

※出穂とは止葉の葉鞘から穂先（芒「ボウ」は含まない）が現れたことをいう。

<尿素有葉面散布の場合>

品 種	施肥時期	施肥量
チクゴイズミ	赤かび病防除と同時散布 (1回)	尿素 5kg/10a
ちくしW2号	赤かび病防除と同時散布 (2回)	尿素 5kg/10a×2回

注1) 高温時(25℃以上)に葉面散布を行うと葉焼けが激しくなる場合があるので、散布は涼しい時間帯に行い、展着剤は使用しないでください。

注2) 散布器具が故障しないように、散布後は器具を良く洗いましょう。

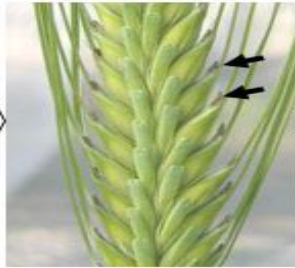
3. 赤かび病 (2回防除が基本です!) その他病害対策

麦種	1回目の防除	2回目防除(1回目の7日後)
大麦	薬穀抽出始め頃 (出穂期から 12~14日後頃)	ワークアップフロアブル 2,000~3,000倍 60~150ℓ/10a 散布 (1回目は2,000倍推奨)
小麦	開花期 (出穂期から 7~10日後頃)	

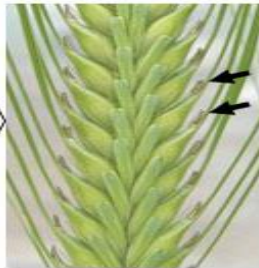
開花(受粉)直後



薬穀抽出始め



薬穀抽出完了



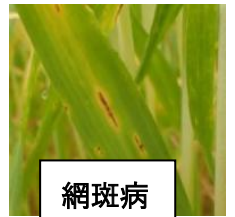
発病(薬穀抽出時接種)



- 小麦の黄斑病が、出穂期前に多発しているほ場では、出穂期までにチルト乳剤25(1,000倍)を散布する。
- 大麦の網班病が、出穂期までに多発しているほ場では、出穂期まで、又は、出穂期以降に多発が予想されるほ場(出穂後に降雨が多いと多発しやすい)では穂揃期頃、いずれかの時期にチルト乳剤25(1,000倍)を散布する。



黄斑病



網班病

※チルト乳剤25は、小麦の黄斑病は使用回数3回以内、大麦の網班病は1回です。

★ 出穂期と防除時期の予測 (11月20日頃播種の場合)

麦種名	品種	出穂期(予想)	赤かび病1回目防除時期(予想)
大麦	はるさやか	3/22~25日頃	4/3~8日頃
小麦	チクゴイズミ ちくしW2号	3/29~4/1日頃	4/5~11日頃

※津屋崎地区は上記予想より10~14日程度早まる可能性があります。

必ず、各ほ場の出穂期を確認してから防除計画を立て適期防除に努めて下さい。